JSET NEWS LETTER
Japan Society for Educational Technology
日本教育工学会ニューズレター NO.257
ISSN 2435-239X

INDEX

PDF 版ニューズレターの発行終了のお知らせ―今後はホームページによる広報へ― 2
全国大会や研究会における新たな取り組み 3
一般社団法人日本教育工学会　第 39 回代議員総会　公示 4
日本教育工学会　2023 年春季全国大会のお知らせ（最終報） 5
研究会の参加募集「テーマ：思考支援／一般」 12
研究会の開催報告「教員養成・研修と ICT 活用／一般」 13
ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（最終報） 14
国際学会 ICoME 開催のご案内 15
AECT2022 の参加報告 16
大学教員のための FD 研修会の開催報告 17
SIG-ID　インストラクショナルデザイン『第 7 回～第 10 回　定例ゼミ』開催報告 18
SIG-ML　メディア・リテラシー，メディア教育
研究会『メディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組み』開催報告 20
SIG-TL　教師教育・実践研究
第 1 回ワークショップ企画『三次元映像を活用した授業研究・教材開発の可能性』開催報告 21
SIG-TL　教師教育・実践研究
第 2 回研究会『教師教育者の専門性開発と教師教育者研究を考える』開催報告 21
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 21 回理事会報告 22
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 22 回理事会報告 23
2022 年秋季全国大会講演論文集 USB メモリの購入について 24
会員の移動状況（2022 年 10 月 05 日～ 2022 年 11 月 08 日） 25
会員の移動状況（2022 年 11 月 09 日～ 2023 年 01 月 06 日） 25
会員の移動状況（2023 年 01 月 07 日～ 2022 年 01 月 31 日） 26
学会日誌 27

事務局●〒107-0052 東京都港区赤坂1-9-13 三会堂ビル8階
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
日本教育工学会ホームページ https://www.jset.gr.jp
e-mail:office@jset.gr.jp

PDF 版ニューズレターの発行終了のお知らせ
―今後はホームページによる広報へ―

広報委員会

広報委員会では約４年間にわたり，ホームページ（HP）の機能強化に努めて参りました．従来ニューズレターに掲載されていた情報は，入会情報を除き全て HP に掲載されるようになりました．そして，What’s new による最新情報の提供，論文誌，全国大会，研究会，SIG など各委員会等からの情報，カレンダーによるイベント日程の一覧や開催報告，それらが互いに連携する機能も追加をしました．これまでに 100 以上の機能追加や改善を行い，紙（PDF）のニューズレター以上の利便性も備わりつつあります．加えて，HP のアクセス数が増えており，相対的に PDF 版の役割が低下しております．近年，各委員会の先生方には，ニューズレターと HP の両方の原稿を用意いただいており，業務負担も問題になっておりました．

そこで，PDF 版のニューズレターを廃止し，HP による広報を主体とし，メール版ニューズレターで毎月，Twitter や Facebook で随時，更新情報などをお伝えすべく準備を進めてきました．この度，準備が整い，理事会の承認を得ましたので，PDF 版のニューズレターは 19 期最後となる本号（2023 年 03 月発行 257 号）をもって終了の予定です．本号と同時に，02 月，03 月はメール版のプレ発行も同時に行っていますが，04 月以降はメール版のみの発行を見込んでおります．また今後も必要な改善を行っていく所存です．

引き続き JSET の広報について，御理解と御支援のほどよろしくお願い申し上げます．なお，御意見等がございましたら，広報委員会まで頂戴できればと思います．

1. スケジュール

2023 年 02 月 03 日　　メール版（プレ発行 1 号）送信
2023 年 03 月 10 日頃　メール版（プレ発行 2 号）送信
2023 年 03 月 15 日頃　PDF 版（257 号）最終発行
2023 年 04 月 10 日頃　メール版（258 号）発行
以降，毎月 1 回 10 日頃のメール版の発行

2. 今後の情報入手の方法

○ホームページ（https://www.jset.gr.jp/）
・「What's New」　→HP の更新情報
・「開催報告」　→学会行事の開催報告
・「カレンダー」　→学会行事のカレンダー表示．Google カレンダー等へのコピー機能有り．
・「ニューズレター」　→メール版を含むバックナンバー
等のメニューから，最新情報を入手ください．
○メール版ニューズレター
・毎月 1 回 10 日頃の発行
・HP の更新情報をお知らせ
○Twitter（https://twitter.com/JSETkoho_update）
○Facebook（https://www.facebook.com/jset.kouhou.update）

文責　広報委員会委員長　高橋純（東京学芸大学）

全国大会や研究会における新たな取り組み

日本教育工学会 副会長 村上正行（大阪大学）
2023 年 03 月

会員サービス向上担当副会長の村上正行です. ニューズレターにおける副会長の挨拶シリーズ，今回が現執行部の最後となります．本号では，日本教育工学会の全国大会や研究会における新しい取り組みについて, 紹介させていただきます.

大会企画委員会では，2019 年より年２回の開催となった全国大会の企画，運営を行っています．2022 年 09 月にカルッツかわさきで行われた秋季大会では，３年ぶりに対面での全国大会を開催することができました．とはいえ，まだいろいろな制約もあり，過去２年間のオンライン開催の経験も活かしつつ，対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド形式での実施となりました. 会場でできるだけ多くの発表をしていただけるように, その上でソーシャルディスタンスを確保するために，会場の配置や入れ替えを工夫していただいて 140 件の発表をしていただくことができました．オンデマンド発表も 137 件で合計 277 件の発表，751 名の参加，うち対面参加が 407 名となり，盛会のうちに終えることができました．ただ，オンデマンド発表は十分な議論ができなかった，という課題もあり，2023 年の秋季大会に向けて，全国大会の新たなあり方について検討してくださっています.

2023 年 03 月に東京学芸大学で開催される春季大会では，学生の研究発表を活性化するための取り組みが行われます．その１つに昨年から始まった学生セッションがあります．このセッションでは，研究発表だけではなく，学生同士の議論も行ってもらうことで，お互いの研究に対する理解を深めるとともに，交流の促進を狙っています．さらに，今回から新たに学生セッション優秀発表賞を設立し，よりモチベーションを高めてもらうことを目指しています．今回の春季大会では，学生セッションとして 14 セッション，48 件もの発表があります．多くの会員のみなさまに，ぜひ学生セッションに参加していただき，活発な質疑をしていただければありがたいです．また，１日目の午前にはチュートリアルセッションとして，主に学生や JSET の参加経験が少ない方に向けて，大会・研究会参加にあたっての心得について，座談会形式で議論します．ぜひ，こちらにもご参加ください.

研究会委員会では，年４回の研究会を開催しており，2022 年 07 月から対面での開催ができるようになりました．発表者は対面で発表を行い，オンラインでの配信も行うことで，会場でもオンラインでも発表を聞くことができます．2023 年度は，４回の研究会のうち１回を完全オンラインとすることで，オンラインでの発表も可能となりました．年間を通して，多様な形態での発表，参加ができるように工夫していただいています.

2022 年度には，徐々に対面でのイベントが可能となり，みなさんとお話できる機会を通して，改めて対面の良さを感じています．もちろん，参加のしやすさなどオンラインの良さもあります．このようにコロナ禍での経験を踏まえて，対面での交流，オンラインでのイベントへの参加，など，多様な形態で研究の議論や情報収集，提供ができるようになった，と言えます．教育工学という分野の研究をしている私たちだからこそ，１人１人がさまざまな挑戦を続けてほしいと思いますし，私自身も本学会がよりよいコミュニティとなっていくように努力していきたいと思います．日本教育工学会での活動，楽しんでいきましょう！

一般社団法人日本教育工学会　第 39 回代議員総会　公示

下記の要領で第 39 回代議員総会を開催いたします.

会員各位および代議員各位のご出席をお願いいたします。なお，代議員総会では代議員が議決を行いますが，それ以外の会員も参加して意見を述べることができます。

代議員の皆様には電子メールにて開催通知を送信させていただきます。ご出席されない場合には，お名前，議案の賛否を記入したメールを 2023 年 03 月 23 日（木）までに送信いただきますようお願いします。

記

1. 日時

2023 年 3 月 26 日（日）13:00～13:50

2. 会場

東京学芸大学 S410 教室

3. 代議員総会の議題

第 1 号議案 2022 年（2022 年 01 月 01 日～2022 年 12 月 31 日）
事業報告及び収支決算承認の件
第 2 号議案 2023 年（2023 年 01 月 01 日～2023 年 12 月 31 日）
事業計画及び収支予算案承認の件
第 3 号議案 理事および監事の選任の件
第 4 号議案 名誉会員の推薦の件

議案資料は，03 月 06 日以降に学会 Web ページに掲載いたします。

一般社団法人日本教育工学会 会長 堀田龍也
2023 年 02 月 21 日

日本教育工学会 2023 年春季全国大会のお知らせ（最終報）

日本教育工学会 2023 年春季全国大会を下記のように東京学芸大学において開催します．多くの方々のご参加をお待ちしています．

1. 開催期日・会場

・期日：2023 年 03 月 25 日（土）～ 03 月 26 日（日）（２日間の開催となります）
・会場：東京学芸大学　〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1
https://www.u-gakugei.ac.jp/

2. 会場へのアクセス https://www.u-gakugei.ac.jp/access/

・JR 武蔵小金井駅・北口より
【京王バス】〔５番バス停〕「小平団地」もしくは「国分寺駅北口」行に乗車，約 10 分．「学芸大正門」下車
【徒歩】約 25 分
・JR 国分寺駅・北口より
【京王バス】〔５番バス停〕「武蔵小金井駅北口」行に乗車，約 10 分．「学芸大正門」下車
※本数が少ないので，ご注意ください．
【徒歩】約 20 分

3. 【重要】当日の会場に関する注意点

・当日会場に入構する際には，正門守衛所で入構指示書を提示する必要があります．
入構指示書は，大会の１週間程度前に，全国大会の参加申し込みサイトのマイページからダウンロードできるようになります．当日は入構指示書をプリントアウトしてご持参いただくか，ダウンロードした入構指示書をスマホ等の画面に表示して，正門守衛所でご提示下さい．
https://gakkai-web.net/p/jset/reg_spring/mod2.php
・交通機関をご利用いただき，車での御来校はご遠慮ください．
・当日は「正門」からお越しください．正門以外の門は施錠されていることがありますのでご注意ください．
・「学芸大正門」バス停近くにコンビニエンスストアがございますが，大学近辺にレストランなどの食事処はございません．学内の食堂は閉まっているため，昼食は各自事前に用意してください．お昼休みは，空き教室を食事処として開放する予定です．
・教室のプロジェクターへの接続は基本的に HDMI となります．プレゼンテーションには HDMI 出力に対応したデバイスを用意してください．

4. 大会日程

各日のスケジュールは下記の通りです．

03 月 25 日（土）	03 月 26 日（日）
08:45～09:15 チュートリアルセッション	
09:20～10:50 研究発表／会員アンケート報告セッション 11:00～12:30 研究発表／自主企画セッション ／重点活動領域セッション（情報教育部会）	09:00～10:30 研究発表 10:40～12:10 研究発表／自主企画セッション
昼休み	昼休み

13:30～15:20 研究発表／企業企画セッション（60 分） ／重点活動領域セッション（学習環境部会） 15:30～17:20 研究発表 ／重点活動領域セッション（学習評価部会）	13:00～13:50 代議員総会 14:00～14:10 全体会 14:10～14:30 SIG セッション 14:40～16:40 シンポジウム
今大会は対面実施のため，コロナ禍の状況を鑑み懇親会は開催いたしません．	16:45～17:00 クロージングセレモニー

*発表時間：20 分（プレゼンテーション 14 分，質疑応答 5 分，交代 1 分）
それぞれのセッションの 2 件目の発表後に 10 分の休憩時間があります．

5. 大会の参加申込及び受付等について

大会に参加を希望される方は，以下の手順に従って申し込みをお願いします．

（1）参加費等について

発表者に関する参加受付は締め切り，支払期間は終了しました．発表者以外の参加のみ受け付けています．発表者以外の参加者の方の事前支払期限は 2023 年 03 月 17 日（金）17:00 で，振込・振替での期限は 2023 年 03 月 20 日（月）です．それ以降は基本的にクレジットカード払いをお願い致します．
※当日会場での参加受付は行いません．当日参加の場合では，参加申し込みサイトから，オンラインで参加登録を行ってから，ご来場ください（https://www.jset.gr.jp/taikai42/registration.html）．

参加費
・参加者（発表者以外）

	早割価格 11 月 25 日～ 03 月 17 日（17:00）	一般価格 03 月 17 日（17:00）～ 03 月 26 日（14:30）
正・准会員（名誉会員は無料）	7,000 円	9,000 円
学生会員	2000 円	4,000 円
非会員	9,000 円	11,000 円
非会員の学生	4,000 円	6,000 円

・講演論文集代（USB 版）：　4,000 円

参加費は，講演論文集（参加申し込みサイトのマイページからダウンロード）を含んだ価格となります．

2023 年春季全国大会講演論文集のダウンロード開始：03 月 17 日（金）予定

（2）参加費に関する注意点

・事前（早割）支払期限以降に送金された場合は，一般参加の場合との差額をお支払いいただきます．事前（早割）支払期限までに発表者の参加費ならびに，上述差額についての納入が確認できない場合は，発表取り消しとなりますので，ご注意下さい．
お支払い後，2023 年 03 月 21 日（火）までのキャンセルについては，春大会企画委員会

（s-taikai2023@jset.gr.jp）までご連絡下さい．送金なさった分を次年度の年会費に振り替えることができますが，**返金自体はできません**．また，非会員の方がキャンセルされる場合は入会をしていただくことになります．この日以降は，ご連絡いただいても，原則として振り替え等ができないことをご了承下さい．
卒業見込み年月が過ぎた学生会員で継続の連絡がない場合は，「准会員」に会員種別が変更されています．学生会員としての特典はありませんので，ご注意下さい．

（3）参加登録と送金について
参加申し込みのシステムには，大会 Web サイト（https://www.jset.gr.jp/taikai42/registration.html）からアクセスして下さい．支払い方法は，「①クレジットカード」「②払込・振替」の２つから選択できます．

①クレジットカードによる支払い
・申し込み後に，クレジットカードの情報を入力する画面に進めます．

②振込・振替
・申し込み時に表示される金額と送金内容を，郵便局に備え付けの払込取扱票に記入して，郵便局の窓口から送金して下さい．必ず会員番号をご記入下さい．

6. 今大会における注意点

（1）実施形態
2023 年春季全国大会は，対面で実施致します．ただし，26 日午後 SIG セッションおよびシンポジウムについては YouTube Live で非会員にも配信致します．アクセス方法は決まり次第，大会ウェブサイトにてお知らせいたします．

（2）講演論文集等について
・講演論文集はオンライン配信に一本化し，USB での配布を致しません．あらかじめ参加申し込みサイトのマイページからダウンロードの上，ご参加下さい．
・USB での講演論文集をご希望の方は，１つ 4,000 円で販売しますので，受付窓口にてお求めください．冊子版の販売はございません．
・当日受付時に，プログラム冊子をお渡しする予定です．別途，購入を希望される方には購入方法をご案内致します．

（3）セッション・企画について
・本春季全国大会の研究発表については，一般研究発表と学生セッション，インターナショナルセッションを口頭発表の形態で開催します．
・学生セッションでは，発表者と参加者が深く議論できるよう，通常の研究発表の後，セッション内でディスカッションの時間（20 分間）を設けます．また，今回から，学生による優れた研究とその成果の発表を奨励するために，学生セッションでの研究発表のうち特に優れたものについて，大会企画委員会から，「学生セッション優秀発表賞」を授与することになりました．
・研究発表とは別に SIG セッション，チュートリアルセッション，重点活動領域セッション，自主企画セッション，企業企画セッション，会員アンケート報告セッション，およびシンポジウムを開催します．それぞれの詳細については後述いたします．

（4）各セッションの発表時間
・一般研究発表，学生セッション，インターナショナルセッションの発表時間は 20 分（発表 14 分，質疑応答５分，交代１分）です．
・一般研究発表とインターナショナルセッションにおける２件目の発表と３件目の発表の間には 10 分間の休憩時間を設けております．

7. SIG セッション　03 月 26 日（日）14:10〜14:30

SIG（Special Interest Group）とは，特定のテーマに興味・関心を持つ会員がグループを形成し，研究会やセミナー等年間を通して活動を行い，学会員のコミュニティ形成を図るものです．学会が法人化したことに伴い 2022 年 01 月より SIG はリニューアルしました．今回の SIG セッションでは，再始動した５件の SIG から活動内容等をご紹介いただきます．また，SIG への登録の仕方などについてもご説明いたします．

・SIG-AI　人工知能の教育利用（旧 SIG-12）
・SIG-CL　協調学習・学習科学（旧 SIG-06）
・SIG-ID　インストラクショナルデザイン（旧 SIG-07）
・SIG-ML　メディア・リテラシー，メディア教育（旧 SIG-08）
・SIG-TL　教師教育・実践研究（旧 SIG-02）

8. チュートリアルセッション　03 月 25 日（土）08:45〜09:15

チュートリアルセッションは，全国大会への参加経験が少ない参加者を主な対象とした企画です．

「JSET へようこそ！〜有意義な大会・研究会にするための質問・発表の心得とは？〜」

主に学部・修士課程・博士課程の学生，学会での発表に不慣れな参加者に向けて，質問の仕方や質問をもらえる発表の仕方など，大会・研究会参加にあたっての心得について，学会副会長，指導学生をもつ教員，学生会員の３つの視点から座談会形式で議論します．

登壇者：村上正行（日本教育工学会副会長（会員サービス担当）／大阪大学）
　　江木啓訓（電気通信大学）
　　居原田梨佐（電気通信大学大学院）
　　鍋谷航平（電気通信大学大学院）

コーディネーター
　　石川奈保子（北海道大学）

9. 重点活動領域セッション

日本教育工学会では，学会として重点的に取り組んでいる領域を社会に示し，学会としてのプレゼンスを高め，社会に貢献することを目指しています．そこで，重点的に活動する領域として「情報教育部会」，「学習環境部会」，「学習評価部会」３つの部会を発足しました．

本セッションでは，前回全国大会に引き続き，３つの部会から構成される重点活動領域について，今後の活動計画や現状での進捗状況等について報告させていただきます．また，多くの会員の皆様からのご意見をいただくことにより，重点活動領域の方向性について議論できればと思いますので，是非ご参加ください．

・重点活動領域セッション（情報教育部会）　03 月 25 日（土）11:00〜12:30

登壇者：鶴田利郎（国際医療福祉大学）・板垣翔大（宮城教育大学）・倉田伸（長崎大学）
　　森下孟（信州大学）・今野貴之（明星大学）
司　会：寺嶋浩介（大阪教育大学）
内　容：

前半はこれまで，情報教育部会において取り組んできた以下の 2 つの研究についてその成果を報告します．

（1）プログラミングを中心とする情報の科学的な理解，情報モラルを中心とする情報社会に参画する態度の本学会における研究動向
（2）教員養成系学部学生を対象とした情報活用能力の調査分析

後半はその発表内容に基づいて，参加者の方々との議論を通して，この分野において今後進める必要のある研究課題をいくつかに整理することをねらいとします．

・重点活動領域セッション（学習環境部会）　03 月 25 日（土）13:30〜15:00

登壇者：稲垣忠（東北学院大学）・三井一希（山梨大学）・江木啓訓（電気通信大学）
瀬戸崎典夫（長崎大学）・仲谷佳恵（東京女子大学）・池尻良平（東京大学）
根本淳子（明治学院大学）
内　容：
学習環境部会では「テクノロジとつくる新たな学びの場・空間を検証する」をテーマに国内外の研究レビューを行ってきました．本セッションでは，教育課題と学習環境研究（稲垣），学校教育の DX 化（三井），センサによる学習活動の測定（江木），VR による学習環境（瀬戸崎），CALL の動向（仲谷），CSCL の動向（池尻），教育パラダイムと学習環境（根本）とそれぞれの立場から学習環境研究のレビューを試みた結果を報告し，今後の学習環境研究を進める上での知見・課題について参加者の皆さんと議論を行います．

・重点活動領域セッション（学習評価部会）　03 月 25 日（土）15:30〜17:00

登壇者：深見俊崇（島根大学）・泰山裕（鳴門教育大学）・益川弘如（聖心女子大学）
大浦弘樹（東京理科大学）
内　容：
まず，2022 年度に学習評価部会で行ってきた研究会の概要を確認した上で，学習評価研究における展望について概説していきます．そして泰山先生（鳴門教育大学）から，教科等横断的な能力の育成・評価のために開発した Can-do Statements と，それを基にした指導と評価のパッケージについてご提案いただきます．それを基に特に初等・中等教育における学習評価のあり方について参加者の皆さんと共に議論を行います．

10. 自主企画セッション

自主企画セッションは日本学術振興会（JSPS），科学技術振興機構（JST）などの公的機関や財団から受けた研究外部資金による研究成果の発信，普及を目的に，シンポジウムやワークショップなどのセッションを自主企画し，実施するものです．

・自主企画セッション１　03 月 25 日（土）11:00〜12:30

教員養成におけるプレイフル・ラーニングを主軸とする階層的 PBL 型カリキュラムの構想

本企画では，教員志望学生に「主体的・対話的で深い学び」の実践に必要な能力を育成する「プレイフル・ラーニング」と階層型 PBL を取り入れた学びの場の構築，そこでの学びの様相について論ずる．具体的には「ジェネレーター」に注目した大学初年次教育授業「スキルアップ講座 J」の授業デザイン，新しい学習観に基づく特別講師によるワークショップの質的検討，プレイフル・ラーニング・ビデオ（PLV）の活動成果報告．そして教育心理学的アプローチによる初年次生及び上級生のジェネレーター能力に関する分析結果を検討する．本セッションを，近年の学習観の転換に対応できる教員の育成のための方法論について議論を深める場としたい．

登壇者：谷口幹也　（九州女子大学）
藤原伸彦　（鳴門教育大学大学院）
村上太郎　（常葉大学・非会員）
石川勝彦　（大阪大学・非会員）
原田歩美　（九州女子大学，学生・非会員）

・自主企画セッション２　03 月 26 日（日）10:40〜12:10

大学生におけるメタ認知の評価と育成の課題―日本・台湾・米国からの実践的報告―

本企画では，大学生の自律的な学習活動を促進するうえで鍵概念となるメタ認知に着目し，その代表的な測定尺度の一つである Metacognitive Awareness Inventory （MAI; Schraw & Dennison, 1994）を共通項とした研究報告と討論を行う．登壇者は日本，台湾，米国の大学教員であり，MAI に基づく尺

度の開発や授業効果の検討，メタ認知能力の向上をめざす授業実践などについて，各大学の特色を踏まえた実践的な研究交流を試みる．とくに米国からの登壇者は MAI の原著者の一人でもあり，今日までのメタ認知研究の発展を背景に, MAI の今日的意義と遠隔でのメタ認知育成の試みについて報告いただく．

なお，台湾および米国からの登壇者は Zoom を介した遠隔参加となる．時間の関係で日英通訳は介さないで行う．

登壇者：山地弘起（大学入試センター）
丹羽量久（長崎大学・非会員）
陳姿菁（台湾開南大学・非会員）
Rayne Audrey Sperling （米国ペンシルベニア州立大学・非会員）
Peter John Bernick（長崎大学・非会員）

11. 企業企画セッション

企業企画セッションは全国大会の協賛企業による企画セッションです.

03 月 25 日（木）13:30〜14:30（60 分）

企業名：ラインズ株式会社
テーマ：e ラーニングの活用による効果〜入学前教育から就職筆記試験対策まで〜
内　容：

本セッションでは，基礎学力強化を観点とした，e ラーニングの活用による効果を実際の事例を交えながらご紹介いたします．入学前教育やキャリア関係授業と連携した成績向上の具体例を，実際に使用した e ラーニングのシステムと合わせて説明いたします. その際の学習状況をどう可視化するかについて，筆記試験対策にどう取り組ませるかの意識改革に e ラーニングを活用した事例についても触れさせていただきます．また読解力の基礎力向上を目指した教材「読解スキル養成ドリル」のご紹介と活用事例についても紹介を予定しています．事例のご紹介を通して今後のご対応の参考となれば幸いです．教材の体験や意見交換についても実施を予定しておりますので，ぜひご参加ください.

12. 会員アンケート報告セッション

企画戦略国際委員会（企画戦略担当）では，2022 年 03 月から 06 月にかけて「日本教育工学会会員サービス向上と国際化に向けた意識調査」を行いました．学会が行う諸活動の認知度や満足度，全国大会や国際学会への参加状況，英語での発表学会や論文執筆への支援ニーズなどについて尋ね，800 件以上の回答を得ることができました.

本セッションでは，これらの回答について結果の概要を報告するとともに，結果に基づき学会の運営や展望についてディスカッションを行います．本学会の会員および学会運営の現状や課題，そして学会の展望にご関心をお寄せの方はぜひご参加ください.

13. シンポジウム　03 月 26 日（日）　14:40〜16:40

「１人１台端末時代における教育工学研究の役割」

文部科学省の「GIGA スクール構想」により，児童・生徒１人１台端末及び高速ネットワークの整備が進められている．また，それに伴いデジタル教材，授業支援システム，クラウド，教育データなどの活用も行われている．コロナ禍の状況も後押しして急激に普及が進んだことによる混乱がある一方で，多様な教科・領域における学習活動で活用され，これまで実現できなかったような教育実践も見受けられるようになった．そうした実践に関する研究知見は個別に示されるようになってきてはいるが，それを超えて，教育工学研究における理論的・実践的な研究への位置付けや発展可能性を議論することも重要だといえる．そこで，本シンポジウムでは，政策・研究・実践などに関わる多様な立場から，現在の取り組みで得られた知見を共有し，これからの時代において期待される教育工学研究の役割について議論する.

プログラム：
プログラムコーディネーター　中橋雄（日本大学）
＜話題提供＞
武藤久慶　（文部科学省）

「データから見える GIGA スクール構想の今」
　木原俊行　（大阪教育大学）
「１人１台端末時代に求められる教師の力量とそれを高めるための学びのあり方」
　稲葉利江子（津田塾大学）
「１人１台情報端末での学びをどうデザインするか」
　小池翔太　（東京学芸大学附属小金井小学校）
「授業外における一人一台情報端末を活用した子どもの学び」
　長谷川菜々　（仙台市立錦ケ丘小学校）
「子供が主体的に学び取る授業へ～クラウド環境を活かした授業デザイン～」

14. 発表にかかる質疑応答について

各セッションは，発表者の研究を建設的に発展させるための議論の場です．そのため，他の発表者や聴講者を萎縮または不快にさせる以下のような行動がフロアに見受けられた場合は，座長は質問を静止したり，質問者に注意を促したりといった対応を行います．

・ 研究内容とは関係ない質問をする
・ 研究内容を強い表現で否定する
・ その他，質問者の持論を展開するなど，非建設的な発言をする

特に，学生セッションは，これからの教育工学を担う若手研究者や学生の育成の場として機能することを目的としていますので，発表された研究をよりよくするための観点などの建設的な提案をお願いいたします．

15. 問い合わせ先

大会全般に関しては以下にお問い合わせ下さい．
大会企画委員会（春季）問い合わせ用電子メールアドレス：s-taikai2023@jset.gr.jp

16. 大会運営組織

春季大会企画委員会

委員長	森田裕介	（早稲田大学）
副委員長	松河秀哉	（東北大学）
	北澤武	（東京学芸大学）
幹事	川面きよ	（成城大学）
	今野貴之	（明星大学）
委員（五十音順）	石川奈保子	（北海道大学）
	遠海友紀	（東北学院大学）
	大山牧子	（大阪大学）
	小林由昭	（内田洋行）
	竹中喜一	（愛媛大学）
	辻宏子	（明治学院大学）
	長濱澄	（東北大学）
担当副会長	村上正行	（大阪大学）

春季大会実行委員会

実行委員長	森本康彦	（東京学芸大学）
実行副委員長	高橋純	（東京学芸大学）
	北澤武	（東京学芸大学）
委員（五十音順）	大村龍太郎	（東京学芸大学）
	加藤直樹	（東京学芸大学）
	小池翔太	（東京学芸大学附属小金井小学校）
	中村純子	（東京学芸大学）
	登本洋子	（東京学芸大学）
	櫨山淳雄	（東京学芸大学）
	宮寺庸造	（東京学芸大学）
	和田正人	（東京学芸大学）

日本教育工学会研究会　https://www.jset.gr.jp/research/

次回研究会の参加募集

●**テーマ**：思考支援／一般
●**日時**：2023 年 05 月 13 日（土）
●**会場**：同志社大学 今出川キャンパス（京都市）
●**担当**：山口洋介
●**募集内容**：

よりよく考えるためには，どうすればよいでしょうか？　変化の激しい現代社会において，思考力の発揮が期待される機会は多くなっています．学校教育においても，思考力の育成により重きが置かれるようになってきています．一方で，洗練された思考を生み出すことは容易くありません．人間の認知資源は限られており，その制約下で複数の情報を操作し，目標の達成に近づくことが求められます．いかにすれば，学習者の思考過程を支援できるのか，また，思考力そのものを育むことができるのか．内的過程の可視化とともに，思考支援のあり方についての知見を蓄積していくことが，ますます期待されます．

そこで本研究会では，思考過程の解明を目指した基礎研究や，思考過程に対するメタ認知的能力の育成に関する実験および教育実践，思考過程を外的に支援するツールの開発など，思考支援に関する報告を募集します．

また，従来どおり，教育工学一般に関する発表も募集します．

●**発表申込期限**：2023 年 03 月 13 日（月）
●**原稿提出期限**：2023 年 04 月 13 日（木）
●**参加登録・支払期限**：2023 年 05 月 05 日（金）
●**原稿執筆**：

原稿は研究会 HP で配布されている原稿見本に従って，執筆をお願いします．

●**原稿提出**：

研究会 HP から「研究会マイページ」より，発表申込時に発行された「登録番号」「パスワード」を使用してご登録ください．なお，期限までにご提出いただけない場合は，自動的に発表取消となりますのでご注意ください．

●**参加登録**：

発表者も，発表されない参加者も，研究会 HP から「参加登録」ページでの事前の参加登録を必ずお願いします．研究会当日，現地会場の受付では事前参加登録を済ませておられるかを確認します．受付では参加費・発表費のお支払いには対応できませんので，お気を付けください．また，参加登録と発表申込は異なりますのでご注意ください．

●**参加費支払**：

参加登録時に，1000 円／1 回（会員・非会員共通），または 2000 円／年間 4 回「研究会参加年間パス」制度（2023 年度分の支払いは 04 月 30 日まで）のいずれかのお支払いをお願いします．
※発表者にはこれに加えて発表費も必要です．詳しくは下の「研究会の運営について」をご覧ください．

●**参加方法**：

今回の研究会は，現地会場での対面開催の予定です．また，昨年度に引き続き，今回の研究会も発表せず視聴だけならばオンライン参観できる形態での開催を試行します．ただし，状況によって完全オンラインへ切り替える可能性があります．

●**研究会報告集**：

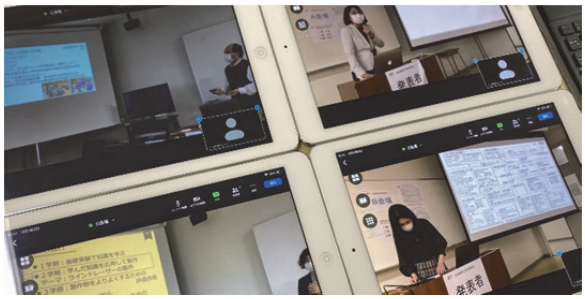
冊子体は廃しましたので，会場で配布されません．発表論文は J-STAGE にて入手してください．

研究会の開催報告　テーマ：教員養成・研修と ICT 活用／一般

●日時：2022 年 12 月 03 日
●会場：鹿児島女子短期大学
●発表件数：57 件（内非会員 13 件）
●参加者数：126 名（内非会員 24 名），来場者数 102 名・オンライン参加者数 24 名

今回の研究会は，発表者は現地参加のみ，発表者以外は，対面もテレビ会議（Zoom）によるオンラインも参加可能とした３度目のハイブリッド型の研究会となりました.「教育の情報化」をメインテーマとし，一般発表と合わせて 57 件の発表があり，４つの分科会での実施となりました．当日はオンラインからの参加を含め，126 名と多くの方にご参加いただき，白熱した議論が行われました.

感染症対策を講じながらの開催につき，現地参加の皆さまには様々な面でご不便をおかけしました．また，オンライン配信においては，十分な配信環境を整えることができず，発表者の声が聞き取りづらかったり，スライドが見えにくかったりした点もあったかと思いますが，皆さまのご協力により無事に終えることができました．研究会にご参加いただきました皆様，開催にあたりご支援・ご協力いただきました関係の皆さまに深く御礼申し上げます.



担当：渡邉光浩（鹿児島女子短期大学）

研究会の運営について

研究会報告集の冊子体の廃止および J-STAGE でのオープンアクセス化に伴い，研究報告集代や年間購読制度は廃止し「参加費」「発表費」を以下のように設定することになりました（2021 年 02 年 03 日告知）.

●参加費：a か b のいずれかが必要です.
（a）1000 円／１回（会員・非会員共通）
（b）2000 円／年間４回「研究会参加年間パス」制度（会員のみ）
※年間パスについて：当該年度内の４回の研究会のすべてに参加可能になります．年度当初に年会費などとともに会員専用ページなどで支払いをしていただく必要があります．なお，2023 年度の年間パスの申し込みは 04 月 30 日までです.
※連名の発表において，当日参加されない著者の方の参加料は不要です.
●発表費：参加費に加えて，発表者には以下の発表料をお支払いいただきます.
（会員）1000 円／１回　（非会員）2000 円／１回
※連名発表の場合，第一著者が発表費をお支払いください．発表費は，第一著者が会員または非会員であるかに応じて決まり，発表１件につき１名分（１回分）の支払いとなります．連名者は発表費の支払いの必要はありません．一方，参加費は当日参加される人すべてにお支払いいただきます.

ショートレター増刊号論文募集のお知らせ（最終報）

日本教育工学会論文誌 vol.47 Suppl.の発行
論文受付締切：2023 年 04 月 01 日（金）17:00

日本教育工学会論文誌 vol.47, Suppl.は，年１回発行されるショートレターの増刊号です．
奮ってご投稿下さい．
投稿規定に明記していますが，以下の点を投稿にあたってご注意下さい．

1. ショートレターは，教育工学に関する，実践的な研究成果，新しい試みやその結果等，教育システム開発等を記述したもの．新規性（オリジナリティ）は必ずしも高くなくても，実践研究の方法と成果を明確に記述したものです．
2. 刷り上がり４ページ厳守です．（４ページを超えるものは採録しない）
3. 筆頭著者（ファースト・オーサー）は本学会会員であることが条件です．あるいは，筆頭著者が投稿時に入会手続きおよび会費納入等をすることが必要です．なお，各会員はショートレターを年１編に限り投稿できます．
4. 2023 年 12 月に発刊の予定です

ショートレターの内容については，例えば，以下のような内容が考えられます．

- 全国大会や研究会で発表した内容をまとめたもの
- 教育システム開発や教育実践をベースにした実践と知見をまとめたもの
- 教育工学研究としての速報的な内容
- 卒業論文や修士論文等としてまとめた内容など

なお，ショートレターとして掲載されたものを一層充実させて，論文あるいは資料としての条件を満たすように記述したものは，論文あるいは資料に投稿できます．

ページ数が限られていることから，タイトル，著者，内容については十分厳選の上，ご執筆下さい．
特に，ショートレターの趣旨から，多人数の連名著者はさけて下さい．研究全体がプロジェクトチームによる共同研究であっても，実際にショートレターの限られた内容に直接携わり，執筆した研究者にして下さい．

ショートレターの査読日程予定
（2023 年度）
04 月 担当及び査読者の指名
05 月 編集委員会で査読進捗状況の確認
07 月 編集委員会で採録，返戻の第１回決定
09 月 編集委員会で採録，返戻の第２回決定
10 月 最終原稿の提出
11 月 著者校正
12 月 ショートレター増刊号発行予定

投稿の仕方：
原稿は，「投稿規程」と「原稿執筆の手引」（https://www.jset.gr.jp/journal/requirements-for-submissions/）（https://www.jset.gr.jp/journal/instructions-for-authors/）に従って執筆し，学会ホームページの会員専用 Web サイトより電子投稿して下さい．会員の ID とパスワードが必要です．投稿論文は電子投稿でのみ受け付けています．

ショートレター編集委員会：
編集委員長　瀬戸崎典夫（長崎大学）
幹事　仲谷佳恵（東京女子大学）

編集委員　池田めぐみ（東京大学）
江木啓訓（電気通信大学）
尾澤重知（早稲田大学）
坂本將暢（名古屋大学）
佐藤和紀（信州大学）
神藤貴昭（立命館大学）
寺嶋浩介（大阪教育大学）
長濱澄（東北大学）
根岸千悠（京都外国語大学）
福山佑樹（関西学院大学）
松田岳士（東京都立大学）

問い合わせ先：
日本教育工学会事務局
電子メール：short@jset.gr.jp
Tel：03-5549-2263

国際学会 ICoME 開催のご案内

ICoME（International Conference for Media in Education）は，日本教育メディア学会（JAEMS），韓国教育情報メディア学会（KAEIM），中国教育工学会（CAET），アメリカ TCC（Teaching, Colleges and Community）との連携によって，開催される国際学会です．

2023 年の ICoME は，CAET がホストとなり温州大学にて開催される予定です．現在のところ，オンサイトでの対面開催を予定していますが，新型コロナウィルス感染症予防に関する各国の対応等影響からオンラインあるいはハイブリッドでの開催となる可能性もあります．今後の動向に関しては，日本教育メディア学会ウェブサイト（https://jaems.jp/icome/）でもお知らせいたしますが，以下に記しております大会のウェブサイトもご確認いただきますようお願いいたします．

ICoME は研究者や教育関係者，大学院生や学部生の貴重な国際的な学術交流の機会となっております．奮ってご参加いただきますようお願いいたします．

■日程：2023 年 08 月 16 日（水）～18 日（金）
■テーマ：Empowering the Future of Education with Digital Intelligence
■場所：温州大学，中国（Wenzhou University, China）
■ウェブサイト：http://icome2023.wzu.edu.cn/

■今後のスケジュール
2023 年 05 月 20 日：発表概要の提出期限
2023 年 06 月 01 日：発表採否の通知
2023 年 06 月 20 日：原稿の提出期限
2023 年 07 月 01 日：参加申込の締切（発表者，参加者のいずれも）
2023 年 07 月 15 日：プログラムの案内（全セッション，キーノート，その他イベント）

■プレゼンテーションの種類
（1）コンカレントセッション（一般口頭発表）
研究者および実践者による一般口頭発表です．概要を提出いただき，発表の採否が決定されます．概要が採択された場合，4･8ページの原稿提出を予定しています．なお，ご提出いただいた原稿の中から優れたものを，the International Journal for Educational Media and Technology 掲載のために推薦させていただくことがあります．
（2）ラウンドテーブルセッション（学部生・大学院生向け研究発表）
１つセッションにテーマが類似する複数の発表者がアサインされ，カジュアルな雰囲気で発表，ディスカッションを行います．概要を提出していただき，発表の採否が決定されます．概要が採択された場合，２ページの原稿提出を予定しています．優秀な発表に対し，Young Scholar Award が授与されます．学部生，大学院生の英語発表や海外の研究コミュニティ参加への機会となりますので，積極的に参加を推奨ください．

■参加費（予定）
・会員（日本教育メディア学会，日本教育工学会の会員の方は以下の料金をお支払いください）
－800 RMB　（～115 USD）
・非会員（上記学会の会員以外の方は，以下の料金をお支払いください）
－1200 RMB　（～172 USD）

・大学院生，学部生
－400 RMB （～58 USD）

※参加費には，ノベルティ，食事，学会の公式イベントへの参加費が含まれます.
※宿泊料や移動等に関する費用は含んでおりませんので，各自でご負担ください.
・支払い方法は後日ウェブサイトにてお知らせいたします.

文責：岸磨貴子（明治大学），山本良太（東京大学）

AECT2022 の参加報告

2022 年 10 月 24 日から 28 日までアメリカラスベガスにて AECT（Association for Educational Communication and Technology）が開催されました．JSET は AECT との連携を重視し，JSET 秋季大会では隔年でプレジデントトークを開催し，AECT の会長から講演をいただいています．また日本からも AECT が開催する大会やセミナーに JSET 会員が参加し，報告を行っています．2020 年は AECT のセミナーや大会において，鈴木克明会長（当時），当時国際交流委員であった合田美子委員や高林智美委員がコロナ禍での日本の取り組みに関して報告しました. 2021 年は企画戦略国際委員会を担当する美馬のゆり副会長や松田岳士委員らがアメリカでの大会に参加し，JSET セッションで発表しました.

2022 年は美馬副会長，岩﨑千晶企画戦略国際委員長が参加し，AECT の JSET セッションで，岩﨑委員長，張暁紅委員が「Trends of Learning Environment in Japan」と題し報告しました．また東京理科大学の渡辺雄貴教授と研究室の院生たちも研究発表を行いました．対面とオンラインのハイブリッド開催だったため，例年と比較すると現地参加の会員は多少減少する傾向にはあったものの，アメリカ，日本，アフリカ，タイ，台湾，中国，韓国等，世界中から参加した教員や大学院生によって多数の発表が行われました.

AECT では参加者同士のつながりを重視した様々な取り組みが行われていました．初めての参加者用のセッションが開催されたり,「1stTimer」であることが名札に提示されたり，参加者同士でのサポートをする仕組みがありました．加えて，大会前日に“Social Ice cream”というイベントが催され，アイスクリーム，チョコレートケーキ，フルーツ，お菓子を楽しみながら参加者間で気軽に意見交換をする機会もありました.

海外からの参加者が情報交換を行える場も用意され，会場では各国の教育工学会が制作したビデオが紹介され，国をまたいだつながりをつくる配慮がなされていました．JSET からは堀田会長のお話のビデオメッセージが流されました．さらに懇親会では，世界各国からの教員や大学院生が参加し，食事をしながら Educational Communication and Technology について意見を交わし合うことができました．また各国の参加者が名産品やアンティークなど価値のある調度品を持ち寄ったオークションが開催されました．この収益は留学生への寄付となります．AECT の事務局長がオークションを取り仕切り，参加者は非常にリラックスした雰囲気で参加していました.

また International Division の担当者からは，翌日に実施される国際に関連するセッションプログラムが前日に連絡されるようになっており，海外からの参加者が迷わずに参加しやすい仕組みがありました．今回の経験を参考にしつつ，JSET の大会においても，海外からの参加者をあたたかくお出迎えできるように取り組んでいきたいと思います.

文責：岩﨑千晶（関西大学）

『大学教員のための FD 研修会』開催報告

日時：2022 年 12 月 17 日（土）13:00～17:50
会場：青山学院大学 相模原キャンパス
参加者数：19 名（FD 研修会 15 名，ファシリテーター研修 3 名，添削者研修 1 名）

本研修会は，大学教育の授業改善や教員の授業力向上へ寄与することを目的に，2008 年度から実施している．今回は，2022 年 12 月 17 日（土）に青山学院大学相模原キャンパスで開催し，参加者は 15 名（大学教員・職員）であった．テーマは，大学教員のための FD 研修会（ワークショップ）「大学授業デザインの方法ー 1 コマの授業からシラバスまでー」で，2011 年度から継続して実施している内容を踏襲している．COVID-19 の影響に伴い，2020・2021 年度はオンライン開催であったが，今回は対面で実施した．本研修の主幹事は甲斐晶子，認定ファシリテーターは，淺田義和，小林雄志，竹岡篤永，また添削者として鈴木浩子が関わった．コーディネーターは，市川尚・岩崎千晶・遠海友紀・勝又あずさ・嶋田みのり・杉浦真由美・高橋暁子・千葉美保子・根本淳子・松河秀哉・宮川幹平・村上正行・森幹彦・渡辺雄貴であった．

「FD 研修会」は「反転授業」の形式で行い，参加者はオンライン（非同期）で事前学習に取り組んだ．ワークショップ当日は，それぞれの参加者が授業実践事例を記載したワークシート持ち寄り，授業デザインに関する問題意識の明確化，授業デザインに関する情報・課題の共有などから議論をはじめ，「何を誰に教えようとしているのか」，「どんな方法で教えるのか」，「続けたい点・変えたい点は何か」など，ペアおよびグループで議論しながら授業の改善案について検討した．
また，本研修では，これまでに FD 研修を修了している学会員のうち，ファシリテーターの認定を目指すものを対象とした「ファシリテーター研修」を開催している．ファシリテーター研修の参加者は 3 名で，FD 研修と同日の午前中に開催した．参加者は，ファシリテーションの基本や本研修における進行のポイントなどを学び．FD 研修会にファシリテーター見習いとして参加し，認定ファシリテーターのアドバイスを受けながらグループワークをモデレートした．

加えて，FD 研修会参加者の最終レポートを添削する役割を担う「添削者研修」を開催している．添削者研修の参加者は 1 名であり，事前に e ラーニングで添削レポートの書き方などについて学んだ．FD 研修会では，認定ファシリテーターとして参加し，最終レポートの添削を行った．
FD 研修会では最終レポートが課せられ，合格した参加者には，FD 研修会の認定証が発行される．最終レポートを添削した結果，参加者全員（15 名）に修了証が発行された．

FD 研修会の参加者を対象として事後アンケートを実施した結果，13 名（86.7%）から回答が得られた．「対面でいろいろな方と交流しながら研修を受けることができた」「ファシリテーターから丁寧かつ的確な助言をいただけた」など，授業改善に寄与できたことが伺える感想をいただいた．一方で，開催時期や会場設営，情報共有の方法など，今後の改善につながるコメントもいただくことができた．みなさまからお寄せいただいたご意見を踏まえ，より充実した研修会となるよう改善を図っていきたい．

ご参加・ご協力いただいたみなさまに，感謝の意を表する．

文責：杉浦真由美（北海道大学）

SIG-ID　インストラクショナルデザイン

『第７回～第10回　定例ゼミ』開催報告

第７回：2022年10月19日（水）12:30～13:10
会場：オンライン（Zoom）
参加者数：９名

紹介した書籍：
Fadde, P.J., Sullivan, P.（2020）. Developing Expertise and Expert Performance. In: Bishop, M.J., Boling, E., Elen, J., Svihla, V.（eds） *Handbook of Research in Educational Communications and Technology*. Springer, Cham.

第７回の題材は「専門的スキルの開発」でした．専門家の養成は様々な関連研究がありますが，本論文では専門性を説明することとその能力開発の違いを踏まえた上で，専門性を高めるため研究・実践におけるインストラクショナルデザインの役割を示そうとしています．専門家養成のための ID モデルとして４種類のモデルが本論文の中で取り上げられていますが，すべて実践的な内容です．専門的なスキルは高度な認知スキルが求められるため，その判断力をトレーニングする手段として文脈の重要性を再認識させる内容でした．

当日は，紹介されていた ID モデルと紹介されていた基礎研究の関連性などについて確認がなされたり，専門性を高める教育は，系統的・積み上げ式で行うよりも早い段階で小さな専門的な実践を重ねていく視点が重要という点から，初年次教育の在り方や重要性についての議論などがありました．

文責：根本淳子（明治学院大学）

第８回：2022年11月15日（火）12:30～13:10
会場：オンライン（Zoom）
参加者数：４名

紹介した論文：
Shana K. Carpenter, StevenC. Pan & Andrew C. Butler （2022） The science of effective learning with spacing and retrieval practice. *Nature Reviews Psychology* 1, 496–511.

第８回は「分散学習（spaced learning）と 検索（想起）練習（retrieval practice）の効果」についてのレビュー論文を扱いました. 分散学習とは学習機会を何度かに分けることであり, 検索（想起）練習とは学習内容を記憶から取り出して使うことを指します．本論文では両方略について概要，なぜ効果があるのか，何に効果があるのか，具体的にはどうすればいいのかが説明されています．後半では，それらの方略が（効果が見込まれるにもかかわらず）学習者に採用されにくい理由について分析を行い，メタ認知の観点から学習支援の方策を提案，また今後の研究指針が示されていました．

発表後の質疑応答では，最適な分散の間隔はないという点について関心が集まりました．領域や課題，学習者の検索能力や記憶保持力によって，最適な間隔や効果が異なるのは当然ですし，覚えた知識を別の文脈でも「使える」まで転移されたかについては測定する難しさもついてきます．他の要因の影響も排除しきれないため，理論の一般化を目指すよりは個々の学習者が自分にとって最適な間隔を探る経験を重ねるのがいいのかもしれません．

文責：甲斐晶子（青山学院大学）

第９回：2022 年 12 月 26 日（月）13:30〜14:10
会場：オンライン（Zoom）
参加者数：６名

紹介した論文：
Rasheed, R. A., Kamsin, A., & Abdullah, N. A. （2020）. Challenges in the online component of blended learning: *A systematic review. Computers & Education*, 144, 103701.

第９回の題材は「ブレンディッドラーニングにおける課題についてのレビュー」でした．本論文では，ブレンディッドラーニングのオンライン要素に焦点をあて，学習者，教員，教育機関の視点から，それぞれの課題が明らかにされていました．学習者の課題としては，自己調整や孤立などのカテゴリが挙げられていました．教員の課題としては，技術的リテラシーとコンピテンシーやオンラインビデオなどのカテゴリが挙げられていました．教育機関の課題としては，技術提供や教員研修などのカテゴリが挙げられていました．

当日の質疑応答では，COVID-19 の影響によって，さまざまな形式のブレンディッドラーニングが行われている背景を踏まえ，ブレンディッドラーニングとは何か，現在の定義は何かという点について関心が集まりました．また，本論文で挙げられていた課題への対策などについての議論が行われました．

文責：渡邉文枝（早稲田大学）

第 10 回：2023 年 01 月 30 日（月）13:00〜13:40
会場：オンライン（Zoom）
参加者数：5 名

テーマ：
インストラクショナルデザイン研究の今後について語る

第 10 回は，インストラクショナルデザイン（ID）研究の今後について検討したいと思い，2021 年に公開された ID 関連研究の論文・報告について情報共有しました．

共有した論文は，「インストラクショナルデザイン」をキーワードとして，J-STAGE（検索フィルター：ジャーナル，査読あり，2021 年）で検索しました．関連論文の総数は 38 件（寄稿，解説，実践速報を含む）で，うち記事にあたる 5 件を削除したところ，33 件が抽出されました．全体的に実践報告が多く，研究対象およびフィールドは医療系の割合が高い傾向が見受けられました．

ディスカッションでは，「単なる実践報告にとどめることなく，意義のある研究にするために必要なことは何か」について，ざっくばらんと議論することができました．詳細は勉強会のレジュメをご参照ください．

文責：杉浦真由美（北海道大学）

レジメなどの詳細は，SIG-07 の Web サイト（https://sites.google.com/view/jset-sig-id）に掲載します．ID にご興味ある方はお気軽にご参加ください．

SIG-ML　メディア・リテラシー，メディア教育

研究会『メディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組み』開催報告

これまで，さまざまな放送局において，メディア・リテラシーを育む活動が行われてきましたが，どのような取り組みが行われているのか相互に共有する機会は限られていました．そうした状況を受けて BPO（放送倫理・番組向上機構）の青少年委員会は，2019-2021 年度に「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究」を行い，報告書を公開しました（https://www.bpo.gr.jp/?p=11369）．そうした取り組みを踏まえ，放送局で教育プログラムの運営を担っている方をお招きして，実際に教育プログラムを一部体験しつつ，これまでの実践報告を伺い，これからの実践や研究のあり方を考える研究会を開催しました．

●日時　　2022 年 12 月 11 日（日）13:00～16:00
●場所　　オンライン開催
●参加者　　36 名
●プログラム
・BPO 青少年委員会「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究」概要報告　中橋雄（日本大学）
・模擬講座・実践報告１「情報の海の泳ぎ方」　林恭子（日本テレビ放送網株式会社）
・模擬講座・実践報告２「つながる！NHK メディア・リテラシー教室」　大橋拓（日本放送協会）
・総合討論 今後の展開

研究会ではまず SIG-ML 代表であり，2016 年度から 2021 年度まで BPO 青少年委員会委員であった中橋雄会員から，「青少年のメディア・リテラシー育成に関する放送局の取り組みに対する調査研究」概要の報告が行われました．この調査研究は，青少年のメディア・リテラシー育成に関する各放送局の取り組みについてアンケート調査と聞き取り調査を行い，その実態を明らかにするとともに今後の在り方を展望することを目的に 2019 年～2021 年の 3 年間にわたり実施されたものです．アンケート調査は全国の NHK54 局及び民放連加盟各社 205 社を対象に実施され，回収率は 80.9%，何らかの取り組みを行った放送局は調査対象の 95.7%でした．また過去 20 年間に取り組みのある放送局が，参加者にどのようなメディア・リテラシーを育成しようとしてきたのかを，５カテゴリー25 項目で確認した結果，「情報の信憑性を判断できる力」を特に重視している放送局が多い一方，あまり重視されていなかった項目もあり，今後の改善の参考にすることができることが示唆されました．

模擬講座・実践報告１では，林恭子氏から，日本テレビで行っている出張授業「情報の海の泳ぎ方」についての報告が行われました．「情報の海の泳ぎ方」は，2017 年から始められた「情報を“見極める”ことを考える授業」です．この授業は 50 分×２コマを原則として，フェイクニュースの事例紹介やアメリカの小学校の様子の VTR，ニュース原稿を読み解くワークなどで構成されています．情報の種類には「自分の考え 意見」「思っていること 推測・思考」「起きたこと 事実」の３つがあることを説明した後に，実際に子どもたちが記者になったつもりで電話取材をするワークの様子などが紹介されました．

模擬講座・実践報告２では，大橋拓氏から，「つながる！NHK メディア・リテラシー教室」の報告がありました．この事業は 2021 年から始められ，東京の放送博物館や拠点放送局と各地の小学校４校を Zoom でつないで行われます．対象は小学５・６年生で，休憩込みの 100 分間で構成されます．３枚の画像で学校紹介をしてもらった後，ケーキ店の CM を作る４つのシーンに，それぞれ４種類の選択肢を用意して，アップとルーズで受け手の印象が異なることや，画像には送り手のねらいや思いがこめられていることを確認します．その上でインタビュー映像を使った「編集によって印象が変わる？」や，証明写真やアイコン，パンフレットを使った「この画像加工は OK？」などのワークを行うことが紹介されました．

総合討論では，学校現場のニーズは SNS の使い方や情報モラルにあるが，放送局としてどこまで取り組むべきか，子どもたち向けだけでなく教員向けの講座も必要なのではないか，こうした取り組みをどう広げていったらよいか，などの点について議論が行われました．

文責：宇治橋祐之（日本放送協会）

SIG-TL　教師教育・実践研究

第１回ワークショップ企画『三次元映像を活用した授業研究・教材開発の可能性』開催報告

日時：2022 年 11 月 12 日（土）13:00～15:00
場所：大阪公立大学文化交流センターセミナー室（大）
講師：森下孟（信州大学学術研究院教育学系・准教授），新村涼一（松本市立筑摩野中学校・教諭）
担当：島田希（大阪公立大学・准教授）
参加人数：15 名（感染予防対策のため 15 名限定で開催）

まず，講師としてお迎えした信州大学の森下孟氏と松本市立筑摩野中学校の新村涼一氏に，三次元映像を活用した取り組みについて，最新の事例を紹介していただきました．授業で三次元映像を活用した事例として，直接視覚的理解が困難な理科分野の分子の構造や特徴を，バーチャル空間で手に取りながら理解できるようにする方法等が紹介されました．これらから高い没入感を得ることができるという特徴が深い思考活動を促すことを実感することができました．また，授業研究での事例については，既に離島や過疎地等での教員研修において，授業のライブ配信やネット上で映像記録を共有した上で検討会を行う際に 360 度カメラが活用されてきたこと，近年ではコロナ禍による教育実習の代替プログラムにおいて活用される例も見られるようになったことをお話しいただきました．その後，三次元映像を用いた教材や 360 度カメラによる撮影等を参加者それぞれのニーズに応じて体験し，それらを踏まえて三次元映像の可能性や留意点の考察を，ワールドカフェ方式で深めました．

文責：古田紫帆（大手前大学）

SIG-TL　教師教育・実践研究

第２回研究会『教師教育者の専門性開発と教師教育者研究を考える』開催報告

日時：2022 年 12 月 13 日（火）16 時 30 分～18 時 30 分
場所：広島大学ヴィジョン教育研究センター／オンライン
講師：岩田昌太郎（広島大学・准教授），指定討論：姫野完治（北海道教育大学・教授）
コーディネータ：谷塚光典（信州大学・准教授）
参加人数：43 名

1990 年頃から諸外国を中心に推進され始めた教師教育研究について，わが国で先進的に取り組んでいる広島大学の岩田氏から話を伺う機会を設けました．

研究会では，まず参加者自身が教師教育者の仕事や役割についてどのように認識しているかを探るワークショップを行いました．それをふまえて，岩田氏より，教師教育者の専門性開発や教師教育者研究の動向，そして岩田氏自身が取り組んでいるセルフスタディや PLC 等の取組みについてお話しいただきました．その後，谷塚氏と姫野氏を交え，諸外国と日本の教師教育者の経歴や立ち位置の違いをどう考えるか，「教師教育者としての専門性開発」とは何を指すのか，セルフスタディの可能性と課題などについてディスカッションを行いました．

文責：姫野完治（北海道教育大学）

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 21 回理事会報告

日　時　　2022 年 11 月 19 日（土）14:40～16:05
会　場　　「JAPET&CEC 会議室」と「遠隔会議システム（zoom）」
出席者：理事　堀田龍也 会長，村上正行 副会長，室田真男 副会長，山内祐平 副会長，
赤倉貴子＊，小柳和喜雄＊，重田勝介＊，瀬戸崎典夫＊，高橋純＊，永田智子＊，
西森年寿＊，姫野完治，益子典文，益川弘如＊，松河秀哉＊，望月俊男＊
監事　鈴木克明＊
総務委員会（オブザーバー）：池尻 良平，伏木田 稚子，長濱 澄
※　＊役員はオンラインによる出席

1. 前回の理事会等議事録の承認
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 20 回理事会議事録について報告があり，承認した.

2. 会員の異動
・2022 年 10 月 05 日から 2022 年 11 月 08 日までの会員の移動状況について報告があり，承認した.
・2022 年 11 月 19 日現在の総会員数は 3,474 名となった.

3. 編集委員会
・論文誌編集進捗状況ならびに論文誌発行スケジュールが報告された.
・47 巻 4 号の特集号について報告があった.
・ITEL の編集進捗状況と次号の招待論文の方針について報告があった.
・承認済みの投稿規定における「投稿原稿の著作権について」を一部改訂することについて提案があり，承認した.

4. 企画戦略 WG
AECT 参加・発表，AECT 向けのショートビデオ作成，中国教育部中央電化教育館による World Internet Conference でのキーノートスピーチビデオの作成依頼について報告があった.

5. 大会企画委員会
・2023 年春季全国大会を対面開催（一部，全体会・シンポジウムのみオンライン配信）にすることについて提案があり，承認した.
・2023 年春季全国大会の予算および参加費について提案があり，名称の修正とそれに伴う内規の微修正を行うことを前提に，承認した.
・2023 年春季全国大会の協賛企業の広告，託児サービス，シンポジウムの暫定案，2024 年春季全国大会（第 44 回）の準備の進捗について報告があった.
・2022 年秋季全国大会の参加者数，暫定の収支結果，今後の大会に向けての検討事項について報告があった.

6. 研究会委員会
・2022 年 10 月の研究会の参加者数と発表件数および 12 月の研究会の発表予定件数について報告があった.
・2023 年の第 1 回研究会を 05 月 13 日にすること，第 2 回研究会を 07 月 29 日にすることについて提案があり，承認した.
・2023 年の第 3 回以降の研究会の開催予定について報告があった.

7. 選挙管理委員会
・代議員，理事の選挙結果について報告があり，承認した.
・選挙規定について一部改定を検討する方針について報告があった.

8. 顕彰委員会
名誉会員候補者選考委員会の設置について提案があり，承認した.

9. 広報委員会
・ニューズレター256 号の発行スケジュールについて報告があった.
・ニューズレター廃止に向けた検討状況とスケジュールについて報告があった.

10. 総務委員会
・現時点での予算執行状況について報告があった.
・2023 年の理事会日程案について提案があり，承認した.
・定例メール理事会を新入会員のメール審議のみとする方針について提案があり，承認した.
・「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募に申請すること，内容については執行部に一任することについて提案があり，承認した.

その他
(1) 協賛依頼について，承認した.
(2) 郵送物について，確認した.
(3) 今後の理事会日程を確認した.

一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 22 回理事会報告

日　時　　2023 年 02 月 11 日（土）14:40～16:50
会　場　　「JAPET&CEC 会議室」と「遠隔会議システム（zoom）」
出席者：理事　堀田龍也 会長，美馬のゆり 副会長，村上正行 副会長，室田真男 副会長，
山内祐平 副会長，赤倉貴子＊，岩﨑千晶，小柳和喜雄＊，瀬戸崎典夫＊，高橋純＊，
永田智子＊，西森年寿＊，根本淳子，益川弘如＊，松河秀哉＊，森田裕介＊，森本康彦＊
監事　吉崎静夫＊
総務委員会（オブザーバー）池尻良平，伏木田稚子，長濱澄
オブザーバー　松田岳士
※＊役員はオンラインによる出席

1. 前回の理事会等議事録の承認
一般社団法人日本教育工学会第 19 期第 21 回理事会議事録について報告があり，承認した.

2. 会員の異動
2022 年 11 月 09 日から 2023 年 01 月 6 日までの入会希望者は，電子会議により全員の入会が承認されている（2023 年 01 月 19 日）．2023 年 01 月 07 日から 2023 年 02 月 11 日までの会員の移動状況について報告があり，承認した．2023 年 02 月 11 日現在の総会員数は 3,514 名となった.

3. 編集委員会
・論文誌編集進捗状況ならびに論文誌発行スケジュールが報告された.
・47 巻 4 号の特集号について報告があった.
・編集委員会委員の交代について提案があり，承認した.

4. 企画戦略 WG
・会員アンケートに関する今後の対応方針と，企画戦略 WG の報告書の作成方針について報告があった．会員アンケートの結果について報告があった.
・2023 年春季全国大会で，重点活動領域セッションを設けることについて報告があった.

5. 大会企画委員会
・大会企画委員の新任委員の提案があり，承認した.
・2023 年の大会企画委員会（秋）の進捗状況について報告があった.
・2023 年の大会企画委員会（秋）の実施方法について，大会前後のバーチャルカンファレンス，シンポジウムテーマの検討状況の報告があった.
・2023 年春季全国大会の申し込み状況，シンポジウムとチュートリアルセッションの登壇者について報告があった.
・2024 年春季全国大会の会場校を熊本大学にすることについて提案があり，承認した.

6. 研究会委員会
2022 年 12 月の研究会の参加者数と発表件数について報告があった.

7. 広報委員会
学会の広報活動の HP，メールマガジンや SNS 等による広報活動への移行について，スケジュールを含めた提案があり，承認した．英文記事の作成，HP の状況等について報告があった.

8. 総務委員会
・名誉会員候補者の推薦について提案があり，承認した.
・第 39 回代議員総会公示及び議題について提案があり，承認した．監査結果について報告があった．また，「未来の学術振興構想」の策定に向けた「学術の中長期研究戦略」の公募に申請したことについて報告があった.

その他
（1）協賛依頼について，承認した.
（2）郵送物について，確認した.
（3）今後の理事会日程を確認した.

2022 年秋季全国大会講演論文集 USB メモリの購入について

昨年 9 月にカルッツかわさき&オンラインにて開催された 2022 年秋季全国大会の論文集 USB メモリに残部があります．購入をご希望の方は，学会事務局（office@jset.gr.jp）にメールで在庫を確認の上，以下の金額をご送金ください．ご入金を確認後お送りいたします.

郵便振込用紙の通信欄に「2022 年秋季全国大会講演論文集 USB メモリ」とご明記ください．会員の方は，会員専用ページからもご購入いただけます．特にご要望がない場合，請求書・領収証等を発行しておりませんので，必要な方はその旨ご記入ください.

・ 2022 年秋季全国大会講演論文集 USB メモリ
1 部 4,500 円（論文集 USB メモリ代 4,000 円＋送料 500 円）

口座番号：00160-4-452130
加入者名：一般社団法人日本教育工学会

新入会員（2022 年 10 月 05 日～2022 年 11 月 08 日）

入会申込者 17 名（正会員：13 名，准会員：１名，学生会員：３名）

正会員（13 名）
田尻美千子（熊本県立大学）
六川麻耶（青木村立青木小学校,信州大学教職大学院）
柳浦猛（筑波大学）
両川晃子（信州大学医学部附属病院）
佐野芳枝（関西学院大学）
梅田香穂子（熊本大学）
山口猛（郡山女子大学短期大学部）
藤岡千也（北海道大学）
山村向志（千葉県立姉崎高等学校）
谷口正明（名城大学）
山中隆史（香川大学）
南部由喜江（大阪ハイテクノロジー専門学校）
吉田幸太郎（仙台青葉学院短期大学）

准会員（１名）
藤井大輔（東京都教育庁）

学生会員（３名）
星洸貴（上越教育大学大学院）
高橋武志（京都外国語大学大学院）
久保田智子（兵庫教育大学大学院連合学校）

以上

新入会員（2022 年 11 月 09 日～2023 年 01 月 06 日）

入会申込者 60 名（正会員 30 名，准会員１名，学生会員 27 名，維持会員２機関）

正会員（30 名）
齋藤大地（宇都宮大学）
坂川侑希（東北工業大学）
小林朋子（静岡大学）
後小路正人（長野県岩村田高等学校）
森分志学（特定非営利活動法人だっぴ）
山崎高志（神戸市立神戸工科高校）
ドゥラゴ英理花（聖徳学園中学・高等学校）
向田識弘（金沢学院大学）
林宏樹（雲雀丘学園中学校・高等学校）
冬木正紀（畿央大学）
村瀬歩（都立工芸高校）
渡邉進武（岐阜県羽島郡笠松町立笠松中学校）
桐生徹（上越教育大学）
谷口幹也（九州女子大学）
前田里美（株式会社リバネス）
金城貴裕（浦添市立仲西小学校）
丸山美香（橿原市立畝傍北小学校）
髙野晋也（東京工業大学）
細田耕平（仁愛大学）
米良克美（株式会社グロービス）
後藤宗（名古屋市立滝川小学校）
山本堅一（北海道大学）
金城尚義（神奈川県立茅ケ崎養護学校）
山崎智志（掛川市立第二小学校）
山本純慈（東京農業大学第一高等学校中等部）
川戸聡也（米子工業高等専門学校）
長谷川博之（比企郡吉見町立吉見中学校）
冨久尾崇（北海道教育庁）
後藤正幸（早稲田大学）
柴本百合香（和歌山大学）

准会員（１名）
川崎裕子（株式会社リクルートマネジメントソリューションズ）

学生会員（27 名）
井上義彦（青山学院大学大学院）
大林要介（東京学芸大学大学院）
織田みか（日本大学大学院）
木村紀彦（慶應義塾大学大学院）
太田直斗（名古屋大学）
村松慶多（横浜国立大学）
小泉勝志郎（宮城大学大学院）
岩井則義（西南学院大学大学院）
浦山勇樹（星槎大学大学院）
中田綾乃（大阪大学大学院）
戸田晃大（九州大学大学院）
荒木淳一（大阪教育大学）
福田遥平（兵庫教育大学大学院）
小池和希（玉川大学）
野見山瑠奈（玉川大学）
中庄司雅也（長崎大学）
山下大吾（広島大学大学院）
北野夏鈴（東京理科大学）
林孝茂（兵庫教育大学大学院）
小泉遥香（信州大学）
齊藤陽花（信州大学）
金松萌々花（信州大学）
藤原雅弘（兵庫教育大学）
劉婧怡（九州大学大学院）
堀﨑光人（大阪大学大学院）
ABIRM ohammed Galib Hasan（北海道大学理学院）
江里口愛那（東京大学）

維持会員（２機関）
ネットラーニングホールディングス,学びの DX 総合研究所
キラメックス株式会社,経営企画グループ R&D チーム

以上

新入会員（2023 年 01 月 07 日～2023 年 1 月 31 日）

入会申込者 64 名（正会員：23 名，准会員：６名，学生会員：35 名）

正会員（23 名）
本田久平（大分高専）
渋谷実希（津田塾大学）
白取耕一郎（環太平洋大学）
文山知紗（駿河台大学）
影山和也（広島大学大学院）
Dhungana Sagun
（Digital&Beyond）
シュレスタマニタ（相模女子大学）
木村憲太郎（大阪総合保育大学）
森岡千廣（京都先端科学大学）
呂建輝（岡山大学）
宗尻修治（広島大学）
田中早代（九州産業大学）
磯部征尊（愛知教育大学）
河村敏文（日進市立日進中学校）
山下遥（上智大学）
新垣知輝（城西国際大学）
武部竜一
廣森友人（明治大学）
鶴田宏樹（神戸大学）
衛藤恵理香（京都女子大学）
平澤傑（岩手大学教育学部附属中学校）
竹田琢（湘北短期大学）
佐藤正範（北海道教育大学）

准会員（６名）
山崎怜（日本工学院専門学校）
佐藤敬子（香川大学）
立花智子（株式会社リバネス）
渡會兼也（金沢大学）
山主公彦（甲府市教育委員会）
下島泰子（お茶の水女子大学）

学生会員（35 名）
中村瑠香（信州大学）
石井魁晟（東京理科大学）
小用悠太（神奈川大学大学院）
海﨑孝斗（兵庫教育大学）
多々納春樹（上越教育大学）
太田小雪（上越教育大学教職大学院）
入口颯太（上越教育大学教職大学院）
周偉杰（広島大学）
日下大輔（宮城教育大学）
池田柊（北海道大学理学院）
山下義史（兵庫教育大学大学院）
小村井聖（岩手県立大学）
屋宜希（東京工業大学）
中間優（都留文科大学）
江部由莉香（東京学芸大学）
及川颯希（岩手県立大学）
片倉悠希（専修大学）
鈴木崚冴（常葉大学）
雑賀琉生（東京学芸大学）
高安哲矢（専修大学）
藤優駿（福岡工業大学大学院）
三輪理人（愛知教育大学教職大学院）
山口大成（東京学芸大学）
中村颯汰（東京学芸大学）
安部はる香（宮城教育大学）
永田丈弥（公立はこだて未来大学）
赤星蓮（九州大学大学院）
謝昌源（東京大学大学院）
佐々木悠稀（東京学芸大学）
野口隼杜（山梨大学）
渡邉洋心（愛媛大学大学院）
川村侑己（専修大学）
阿部翼（専修大学）
大野輝（専修大学）
駒井亮（立教大学大学院

以上

◎学会日誌

２０２３年０３月～２０２３年０５月

・ 2023 年 03 月 25 日（土）～ 26 日（日）＜全国大会＞
2023 年春季全国大会（東京学芸大学）

・ 2023 年 05 月 13 日（土）研究会「思考支援／一般」
（同志社大学今出川キャンパス）

◎国際会議の案内

２０２３年０３月～２０２３年０７月

・SITE2023
https://site.aace.org/conf
（2023, 03/13 – 17, New Orleans, Louisiana, USA）

・iLRN2023
https://members.immersivelrn.org/ilrn2023/home-ilrn2023/
（2023, 05/18 – 20, Online）
（2023, 06/26 – 29, San Luis Obispo, CA, USA）

・AIED2023
https://www.aied2023.org/
（2023, 07/03 – 07, Tokyo, Japan: synchronous hybrid）

・EdMedia2023
https://www.aace.org/conf/edmedia/
（2023, 07/10 – 14, Vienna, Austria）

お問い合わせ先

学会についてのお問い合わせは，
下記のWebフォームから
お願いいたします．

https://www.jset.gr.jp/contact/

広報委員会

担当副会長　：室田 真男（東京工業大学）
広報委員長　：高橋 純（東京学芸大学）
広報副委員長：光原 弘幸（徳島大学）
幹事：深見 俊崇（島根大学）
幹事：脇本 健弘（横浜国立大学）
委員：佐藤 和紀（信州大学）
島田 希（大阪公立大学）
中村 恵（幾央大学）
登本 洋子（東京学芸大学）
E-mail：kouhou@jset.gr.jp

発行所●
一般社団法人日本教育工学会事務局
〒105-0001
東京都港区虎ノ門 2-10-1
虎ノ門ツインビルディング
TEL 03-5549-2263
FAX 03-5575-5366
E-mail：office@jset.gr.jp
https://www.jset.gr.jp
郵便振替00160-4-452130

日本教育工学会ニューズレター
No. 257
2023 年 3 月 15 日

発行人●会長 堀田 龍也（東北大学）